

『新中国未来記』における「志士」と「佳人」 ——『経国美談』『佳人之奇遇』からの受容を中心に

寇 振鋒

1. はじめに

梁啓超（1873－1929）著の『政治小説新中国未来記』（1902）は、中国初の政治小説であり、「小説界革命」の先駆的作品である。小説は五回で中絶したが、中国小説史上新しい試みであった。ちょうど百年前の政治小説として、今日から見れば、確かに幼稚で面白くない。にもかかわらず、小説の叙事形式及び先駆的な役割が、研究者に評価されている。¹

『新中国未来記』は、日本の政治小説を藍本として創作されたことが確実である。²日本のほとんどの政治小説には志士と佳人が登場している。いわば、「志士」、「政治」、「佳人」という三位一体の組み合わせであると言えよう。政治を中心とする「志士」と「佳人」の形式の政治小説が、梁啓超の『新中国未来記』に大きな影響をもたらした。『新中国未来記』創作前、梁啓超は日本政治小説の代表作『経国美談』『佳人之奇遇』を二回推奨し³、この二編の政治小説を梁啓超自らが創刊した『清議報』に連載した。しかも、『佳人之奇遇』は梁啓超が自ら漢訳した。故に、『新中国未来記』における「志士」と「佳人」像には、『経国美談』『佳人之奇遇』からの受容の可能性が十分にあると言えよう。

小論の目的は、先行研究を踏まえたうえで、『経国美談』『佳人之奇遇』両書における志士と佳人が、『新中国未来記』に与えた影響を検討することにある。

2. 『新中国未来記』の梗概及び登場人物

『新中国未来記』は、梁啓超自らが編集し、「中国唯一之文学報」⁴と自慢する雑誌『新小説』の第一号、第二号、第三号、第七号にそれぞれ連載され、五回で中絶している。五回の内容及び登場人物を簡単に見よう。

第一回 まくら

小説は発表当時の1902年から六十年後の1962年の元日のことを描いている。その元日の日は、ちょうど中国維新五十周年大祝典記念日に当たり、全国規模の祝典が行われている。この祝典で孔弘道（字は覚民）という、「中国最近六十年史」と題する講演を講ずる人物が設定されている。

第二回 孔覚民が近世史を演説し 黄毅伯が憲政党を組織す

孔覚民によって、その六十年間の歴史が予備時代、分治時代、統一時代、殖産時代、外競時代、雄飛時代という六つの時代に分けられる。憲政党を創った英雄豪傑——講堂前の高台の上に新しく建てられた雄姿颯爽たる銅像の主である黄克強（黄毅伯）が孔覚民によって紹介される。

第三回 新学を求めて三大洲を環遊し 時局を論じて兩名士が舌戦す

この回に、主人公がいよいよ登場する。黄克強と李去病二人は英国留学後、欧州各国を漫遊して帰国し、山海関に到着する。ロシアの植民地となった当地の惨状を見て、二人は革命が是か非かの弁論を四十四回にわたって戦わした。李は革命論を主張するが、黄は穏健な立場に立つ。

第四回 旅順に鳴琴して名士は合弁し 榆関に題壁して美人は遠遊す

旅順見学後、黄、李は再び山海関に戻って同じ旅館、同じ部屋に投宿する。翌朝、李はこの前壁に記した「賀新郎」の下に、端雲という女性が続けて詠じた詞を発見する。この回では、王端雲という女性が謎めいて登場する。

第五回 喪に駆けつけんとして船は阻まれ二つ怪現象を見 病に対して薬を論じ微言に単独で合う

黄李二人は、同志を集めるために上海に来て、黄の母方の親戚陳星南の所に身を寄せた。そこには黄の母親が亡くなり、父親が病気であるとの電報が届いており、帰省を急ぐが、船便がなく三日間滞在を余儀なくされる。張園（清末上海の集会演説場）で開かれる民意公会の大会に黄、李は出席し、会長鄭伯才の民族革命論に耳を傾ける。

以上の要約からみると、小説における主な志士は、黄、李二人であり、佳人は謎の女性王端雲と推測される。第四回の題壁詞の作者王端雲が、第五回の同志リストにおける三人の女性の中で第一位に並べられている。その名前の下に「広東人、度胸、気骨、学識がずば抜け、現在欧州のスイス留学中」と記されており、五回以後も佳人の登場がある可能性が大きいと考えられる。佳人の出現は、日本の政治小説と関係があると思われる。

3 . 日本の二大政治小説における「志士」と「佳人」

『新中国未来記』の下敷きとなった日本政治小説は、主に『経国美談』、『佳人之奇遇』の二編である。この二編の政治小説には、志士佳人が共に登場している。これについて簡単に紹介しよう。

『^{齊武}経国美談』(前篇 1883 年——後篇 1884 年)の作者は、明治の代表的政治家、文筆家の矢野龍溪である。漢訳の『経国美談』は梁啓超自らが創刊した『清議報』の第 36 冊から第 69 冊に後篇十九回まで連載された。小説は、ギリシア古代正史を材料にとり、それを補述し、人情滑稽を加えて小説体とし、当時の自由民権、富国強兵の好尚に投じたものである。主人公は、齊武に住んでいる巴比陀、威波能、瑪留という「三人がそれぞれ智、仁、勇の三徳を代表していることを暗示している」⁵人物である。『経国美談』の主人公は、歴史的実在性を帯びつつ虚構性の空間を生きる者である。佳人令南と志士巴比陀の恋は、前篇から後篇にかけて印象深い場面を構成する。巴比陀が、刺客に狙われるのを避け、阿善の行政官李志の家に避難した際、令嬢の令南は巴比陀の人品に引かれ、巴比陀も令南の賢さを感じて、お互いに好意を持つ。しかし、巴比陀は、「済民の大業にのみ熱心して他事を思はざる」⁶「英雄」で、令南も「其の家訓厳正なるがために懐春の情致なく」(前篇第 9 回)という「淑女」であった。そのために「二人の間に恋愛が生まれてくるとすれば、それは切実かつ純粹なものとしてあらわれることになろう」⁷と指摘されたとおりである。

結局阿善の政変で、令南と父親は殺害された。巴比陀は、「君は我身を救ひしに我身は君を救ひ得ず赦るし玉へ」⁸として、私情の惨みに耐える「英雄」の悲痛な心を表わす。後篇第九回に、威波能が亡国米世の利家の四人を威波能の家に寄寓させ、貞納、裕綺姉妹の二佳人が登場する。二佳人の「薄命を憐みて」(後篇第 11 回)、威波能は姉の貞納を娶り、巴比陀は妹の裕綺を娶って、志士佳人が結婚に至った。この結婚は、平岡氏によれば、「これはむろん恋愛の実現というものではない」⁹と指摘されている。志士佳人の恋愛は人情本の恋愛とは同じではないと思われる。

『経国美談』と並んで政治小説界に圧倒的な勢いを持っていたのは、『佳人之奇遇』である。梁啓超が翻訳した『佳人之奇遇』は自ら創刊した『清議報』の第 1 冊から第 35 冊に巻十一まで連載された。小説は全八編十六巻、1885 年から 1897 年にかけて、十二年に亘る大著である。足掛け十二年にも

及ぶので、登場人物も前後で大きく異なる。前半は、維新の際に会津藩士として「亡国」の悲哀を味わった散士とスペイン人幽蘭、アイルランド人紅蓮の二佳人、明末遺臣後裔の老志士范卿の四人によって舞台が動く。後半は、散士一人が中心人物となっている。

『佳人之奇遇』の自叙、「笈ヲ負テ海外ニ遊ビ専ラ実用ノ業ニ志シ経済、商法、殖産ノ諸課ヲ修ムニ汲汲タリシヨリ殖産利用ノ心日ニ長ジテ花月風流ノ情日ニ消シ」¹⁰によると、「笈ヲ負テ」米国に遊学した散士は、美女に出会っても「花月風流ノ情」が生れず、消えてしまう。散士がフィラデルフィアの独立閣で幽蘭と紅蓮の二佳人に「奇遇」することから、小説が展開していく。二佳人は共に欧州列強のために苦しめられる祖国の国権を守りぬこうと戦っている亡命者である。散士は幽蘭の清らかさに強く心引かれ、七日後の再会を約して別れたが、幽蘭の消息は一切不明で、米国に帰った紅蓮が偶然散士とめぐり逢い、二人の間に微妙な愛情が芽生える。しかし、散士と紅蓮の恋愛は、「一時ノ癡情後憂ノ種子ノミ」¹¹（第五編）にすぎなかったのである。

最後に散士は、エジプトの王族に幽閉され辱しめを逃れるために、ナイル河中のロウダ島の一小楼に隠棲中の幽蘭と再会した。しかし幽蘭を救出する術もなく、公務を理由に別れて行くという慷慨型の志士であった。

要するに、『経国美談』『佳人之奇遇』の「志士」「佳人」の恋愛は結局ただ精神上のものにすぎない。この恋愛は人情本の恋愛と違って、主人公が政治思想を有するので、政治と矛盾することはなかった。この点について梁啓超はどうしても軽視できなかつたと思われる。

4. 『新中国未来記』の「志士」「佳人」像における日本の政治小説の受容

『新中国未来記』の創作前、梁啓超は『経国美談』『佳人之奇遇』の志士佳人の形式を次のように評価している。「政治小説『佳人之奇遇』『経国美談』等があり、役人の異才によって、政界の大勢を書く。美人芳草に、別に意図がある。熱血舌戦、幾多闘將、読む度に心を打たれ、感情移入させられる。國中上下に、誰もが同好を持つ。」¹² このようであれば、自ら創作した政治小説において、才子佳人の形式を恐らく排除できなかつたであろう。¹³

黄克強は『新中国未来記』の主な主人公の一人であり、孔弘道の六十年史の講義によれば、六つ時代における第三時代の第二代大統領と第四時代の第四代の大統領である。「清末小説における人物の名前は、政治小説の中で象

徴的なものであり、一種の理想を象徴している」¹⁴と指摘されたように、第一代大統領としての羅在田は象徴性を持つ。光緒帝の名が「載湉」で、「在田」と同音、羅が「愛新覺羅」の羅である。つまり、羅在田とは光緒帝の名を寓している。黄克強は、黄帝の子孫が克く自強する意味を寓する。¹⁵黄に次ぐもう一人の主人公は、李去病である。「去病」という名前は、匈奴を征伐した前漢時代の大将軍霍去病を思い出させる。この中に何か寓意がないのだろうか。第五回において、水兵風の外国人に一人の中国人が殴られているのを李去病は目撃し、痛憤のあまり突然駆け出してその外国人の前に立塞がる。小説はここで未完のまま打ち切られた。李去病が霍去病のような国民的英雄であることは、小説の第五回以後に表れてくるものと推測される。

主人公の黄、李の二志士像は、『経国美談』における主人公巴比陀、威波能から学んだ可能性がかなり強いと考えられる。

巴、威二人は作者がわざと遥遥相對させようとしたものである。従って其の叙事も相準じているようで、前篇は巴氏のために立傳している。後篇は威氏のために立傳している。……前篇には阿善に於いて巴氏が恢復を謀る大議論がある。後篇には斯波多に於いて威氏が禮を議論して、斯王に抗して大議論することがある。皆相準じて対立している。¹⁶

これによれば、巴、威の二人は揃って登場する志士像である。前篇第十五回、齊武民政回復の好機に、巴比陀は「暗刺狙撃」を主張する英雄であり、威波能は「仁」を生きる「賢士」である。

抑々巴氏と威氏とは刎頸の親友にて共に久しく国事に盡力し騒乱の日も同じく危難に罹りし程にて兩人私交の友情を論ぜば骨肉も啻ならず、然れば今此の大事を挙ぐるに臨ては兩人の中何れか其意を枉げて一方の見込に随ふならんと思ひの外人民の利害国事の得失に至ては兩人少しも持論を枉げず各々其意を行はんとするは是れ則ち私情を捨て公義に就く英雄志士の交際なり¹⁷

この回の尾評によれば、成島柳北は「威氏の仁、巴氏の義、共に正人たることを失わず」と評し、藤田鳴鶴は、「巴、威二人が各自の異なる意を執り、然るに交誼を傷つけない。これは妙なる処だ。志士国に盡して、苟合しない。最も世人を戒めるに足ることである。」と評する。巴、威二人は相

互に支持し、補完する存在であるとも考えられる。これが、『新中国未来記』において黄、李二志士と一致するのは、偶然だと考えられない。

『新中国未来記』の第三回には、黄、李二人が、革命論・非革命論の二大問題に対して、駁し来り駁し去り、わたり合うこと四十四回で、合せて一万六千余語がある。二人の関係について、第三回には次のように述べられている。

黄李二傑の仲を見よう。彼らは同じ省、同じ府、同じ県、同じ里、同じ先生、同じ学校、同じ旅程、恰も比翼の鳥、比目の魚のように、全く別体一心といったところである。しかし公の事を論じて意見が一致しない場合、絶対一步も譲らない。自分の信じる主旨は、たとえ霹靂が頭上で旋回しても、決して譲歩しない。このような勇氣は普通の人にまねのできることであろうか。彼らは公の事でこんなに言い争うが、私情において依然として親愛しあい、意見の相違によって仲が傷つけられることは全然なかった。最近小学校教科書には皆く黄と李の連袂>という一条を採っている。それは彼ら二人の友情を述べて、児童に交友の模範を教えているのである。¹⁸

志を同じくする志士が国家の大事のために「野合しない」ものであることは、『新中国未来記』と『経国美談』が軌を一にするものである。このことから、『新中国未来記』の志士英雄像は『経国美談』から受容してきたものと推定される。

それでは、『佳人之奇遇』の志士像散士は、『新中国未来記』の志士像にどのような影響を与えたのか。『佳人之奇遇』の舞台は外国である。東海散士と名づけた著者自身がこの小説の主人公である。中村氏は『新中国未来記』の「主人公たる黄克強が、『佳人之奇遇』の東海散士の変形であることは、誰しも気付く所でなければならぬ」¹⁹と指摘している。『佳人之奇遇』における志士は主人公の散士一人しかいない。幽蘭、紅蓮、范卿の三人は共に散士の分身にすぎない。²⁰しかし『新中国未来記』では、主人公は「同じ省、同じ府、同じ県、同じ里、同じ先生、同じ学校、同じ旅程」の黄、李二人で、『経国美談』における巴、威のように、二人揃って登場してくる。黄、李二人は梁啓超の分身である。黄が改良派の代表で、李が革命派の代表であるが、完全な対立ではなく、互いに補完する性格を持つ。すなわち黄、李二志士は共に東海散士の化身であるとも考えられないか。黄、李の形象は東海散士および巴比陀、威波能の志士像の受容であると考えられないだろうか。

政治理想を抱いている志士は政治に余念がないが、しかし肉親との感情から離れられない。これは『新中国未来記』が『佳人之奇遇』から受容したプロットである。第五回では、黄、李が「好漢を物色し、互いに連絡する」ため、上海に到着した。その夜、母方の親戚陳星南から「母が先月世を去り、父が病中、至急帰れ、武」との弟黄克武からの電報が渡され、黄はひどく悲しみ痛む。しかし、船便がなく三日間待つ間、上海の新党が張園に集合する状況を目の当りにして慨嘆した。これについては、『佳人之奇遇』の第五編巻九に似た場面がある。「時ニ忽チ飛報アリ故国ヨリ来ル曰ク阿爺逝矣ト散士驚愕唯夢ノ如シ」、散士はフィラデルフィアを離れて、メキシコに赴き、その国情を実見して強く慨嘆し、母国に帰っていった。ここから見ると、小説には志士の政治的熱情のほか、肉親との普通の人間としての心情も描かれていることが分る。

次に佳人像について検討しよう。『新中国未来記』における佳人は舞台に正式に登場していない。しかし佳人像は明らかに設定されていると思われる。小説の第二回には、憲政党の規約の第八節が、「党员は官、紳、商、男、女を問わず、如何なる職業に携わっても、その党内における権利義務は一切平等である」と、女性の権利を指摘し、「王端雲」という女性の登場をほのめかしている。小説の第三回において黄、李の二人が弁論する序幕を見ておこう。黄、李は山海関で殖民地としての惨状を見て、旅館に戻って酒を心中の憤慨に注ぎかけ、遂に大泥酔してしまった。二志士は連句によって「賀新郎」を壁に書きつけた。

この詞には、黄、李二人の憂国の思いが込められている。昔の祖国はもはや存在しない。熟睡している国民を早急に目覚めさせなければならないという英雄の気迫が表れている。黄、李が数日後同旅館に戻ってみると、「賀新郎」の下に次韻が加えられていた。

……人権は必ずしも釵裙によって異ならず、ただその女龍は既に醒むるに、雄獅なお昏睡するがごときを怪しむ。魯陽の落日を回らすを約束するに、責任惟男子のみに限らず……

黄は、「これは女性の言葉つきみたいだ」と言い、李は、「筆跡から見れば、その雄渾には秀麗な気配がある、きっと女性に違いない」と言う。そして、その次韻の下に跋が記されている。

東欧に遊学するに、道は榆関に出づ、壁上の新題、墨痕なお湿やかなり。

衆生沈酔せるに、尚お斯の人あり……癸卯四月、端雲並記

この跋を見た黄、李は、彼女が何故香港経由ではなく、シベリア鉄道で行くのか、何故西欧ではなく、東欧へ遊学するのか、何故あいにく会えなかったのか、という一連の疑問を抱いて、彼らの「乗風紀行」に書き写した。前述したように、第五回にも、広東籍の王端雲の名前が再び出てくる。この謎の女性はその後登場する予定であったと推測される。

「人権は必ずしも叙裾によって異ならず、ただその女龍は既に醒むるに」、
「責任惟男子のみに限らず」という王端雲の女性像は、恐らく『経国美談』における令南像ではなく、『佳人之奇遇』の幽蘭、紅蓮像である。というのは、令南は淑女式の佳人像にすぎないが、幽蘭には革命家の形象があり、紅蓮は女丈夫の形象を有しているからである。幽蘭、紅蓮は、故国の地を踏むには、現存する政権を倒さなければならないという佳人像である。幽蘭は、スペイン革命失敗後、父親と祖国を去って米国に亡命し、「立憲公議」の自由主義政治のために再挙を図り、米、伊、仏、印度、埃及などを漂泊する革命家である。紅蓮は、父親が愛蘭の独立運動を企て、獄中に死し、祖国を追われて米国に追放された佳人である。そしてまた、米国、仏、伊、カナダなどを転々し、英国の虐政から祖国を解放しようとする女丈夫である。

『経国美談』、『佳人之奇遇』における志士、佳人間の恋愛は共に結果のないままに終わった。『経国美談』における巴比陀、令南の恋愛は「死別」で、『佳人之奇遇』における散士、幽蘭の恋愛は「生き別れ」で終わった。但し、『佳人之奇遇』には、朦朧とした三角関係があるものの、散士は依然として、「婦人のために志を失ったりせぬ、慷慨型の紳士に終始して」²¹いる志士である。それにもかかわらず、梁啓超はなぜ、「曩に『佳人之奇遇』を訳し成り、游想を生ずる毎に空冥を渉る。今より柴東海を羨まず、枉げて多情によりて薄情を惹く」²²と詠んだのか。実は、散士は「多情、薄情」的な志士像ではなかった。だから、梁啓超は恐らく別のことを指している。これは、『新中国未来記』の背景をなす自伝的内容から検討すれば分かると思われる。

自伝性について、中村氏が既に詳しく指摘しているが²³、足りないと思う。自伝的傾向を考える上では、梁啓超の「ハワイの恋」²⁴を考慮しなければならない。梁啓超が1899年12月から1900年7月下旬まで米国のハワイに滞在中において、華僑の娘何蕙珍が梁啓超の通訳を担当し、お互いに恋が芽生えた。

これについて梁啓超は夫人蕙仙への手紙に次のように詳しく述べている。

蕙珍は年が二十で、欧米言語に通じ、殊に欧米言語を得意としている。ホノルル全土には比べられる男性がいない。学問、見識が共に素晴らしい。国事を話すのが好きで、大丈夫の気質を持つ。²⁵

蕙珍は友人を通して梁啓超に愛慕の心を伝えたくて、自らも次のように直接告白している。

現在小学校の教諭をしていますが、それは私の志ではありません。私は数年の教師の蓄積を使い、アメリカ州の大学へ学びに行きます。学業を終えて帰国し、奉仕するつもりです。先生は将来維新が成功したら、私を忘れないでください。女子学校を創設することがあり、私に知らせて招いて下さったら、必ず赴任します。私の心の中には、先生しかいません。²⁶

梁啓超の文章も恋心がにじみ出ている。

余は帰宅後、益々蕙珍を思い慕うようになった。尊敬より恋心が滲み出てきた。殆ど自制できない。お嬢さんを害することになるとはっきり分かっているのに、余はこの考えを持つべきではない。しかし自制できない。酒席が終わり、客が去った。一晚眠れなくて、胸の内では血潮が沸き立つ。生れて二十八年、こんな笑うべき事はなかった。²⁷

「当日先生は紀事詩二十四首を作る。全てこの事を詠んだものである」²⁸と指摘された通り、梁啓超はこの「ハワイの恋」を「紀事二十四首」に詠じた。その二十四首における「曩に『佳人之奇遇』を訳し成り、游想を生ずる毎に空 冥を渉る。今より柴東海を羨まず、枉げて多情により薄情を惹く」は、『新中国未来記』に対する構想ではなく、当時の恋を告白したにすぎないと考えられる。「現今国事で天下に奔走する」²⁹ ために「愛情を持ちつつ嬋娟を慷慨して謝絶する」³⁰ 梁啓超の「ハワイの恋」は、『佳人之奇遇』の、公務を理由に恋する幽蘭を後にする慷慨型の東海散士と同じく、幻の恋に終わったのではないか。

即興に書いた詩は、『新中国未来記』に志士、佳人像が現れない理由としては成り立たないと思う。³¹ 王端雲という女性像は、シベリア経由の東欧遊学や、大志を抱いている詞などから見れば、幽蘭、紅蓮の「革命家」、「女丈

夫」像及び何蕙珍のような「女丈夫」に基づくモデルではないか。

王端雲という女性像のモデルについては、二人の研究者が論及している。一つは、中村氏が、『平等閣筆記』に見える逸話を直接粉本とすると³²指摘し、もう一つは、山田敬三氏が、「羅孝高の『東欧女豪傑』のヒロイン華明卿であり、そのモデルは狄葆賢の『平等閣筆記』に描かれた謎の女性であった」³³と指摘している。庚子の年（1900年）冬、狄葆賢は、数人の友人と日本から帰国途中、山海関などを歴遊した際、容姿倩雅で、粧服淡素なる女性が一姥一僕を携え、北に向かって旅立つのを見た。狄葆賢はその状況を訝りながら、旅館に入ると、壁には墨の跡がまだ乾かない、字体も洗練した詩数首が題されてあった。その作者が誰であるのか、旅館の主人も知らないという。

王端雲という女性像のモデルが、狄葆賢の『平等閣筆記』の謎の女性であることは、ほぼ確実であると思われる。その逸話は、『新民叢報』第四号の「飲冰室詩話」、『飲冰室文集』にも引用されている。というのは、梁啓超が「その事は極めて趣があり、且つその人も極めて不思議である。それを読むと中国の女性の権利の事の一斑も知ることができる」³⁴と思ったからであろう。この逸話は梁啓超が自ら二回引用していることから見れば、脳裏に強い印象が残ったことは想像に難くない。そして、『新中国未来記』の王端雲、『平等閣筆記』の謎の女性が共に「榆関」（山海関）という所に現れる。このことからすれば、王端雲という女性像には、作品の創作時期の状況から見るにせよ、作品のプロットから見るにせよ、この謎の女丈夫式の女性姿が投影していると考えられる。

なお、王端雲は『東欧女豪傑』のヒロイン華明卿である」という山田氏の指摘には、再検討の余地がある。山田氏の論は『新中国未来記』第四、五回に『東欧女豪傑』の作者羅孝高が加わっていたという点から論じているのである。それに対して夏暁虹が強く反駁している。³⁵私は『新中国未来記』の作者が梁啓超であるという夏氏の論に賛同する。その点から見れば、『東欧女豪傑』の作者羅孝高は『新中国未来記』の創作に加わっていなかった。換言すれば、王端雲が『東欧女豪傑』の華明卿とされていることは、成立しないと言えよう。まず、時間的な可能性から考えよう。『新中国未来記』と『東欧女豪傑』は同時に『新小説』第一号から掲載され始めた。『新中国未来記』の「緒言」に、「余がこの書を著わそうとして、ここに五年になる」、「この種の書は中国の前途に大いに裨益あることを確信し」、「編中の寓言は、頗る熟慮

を費やし、ぞんざいにはすることはなかった」と言う。梁啓超がこのように苦心した小説における登場人物を、同時に掲載される他の小説から引用することは考えられない。小説の構成は恐らく再三練られたものと思われる。なお、『東欧女豪傑』の華明卿は第一回で、スイス留学中、偶然『平等閣筆記』を読み、そこに登場する謎の女性について「なんと我が国の同胞姉妹にはこんな多感で愛国の人がいるの。将来彼女に幸いにも会うことができればいいね。」と感慨している。ここから見ると『平等閣筆記』における謎の女性が、『東欧女豪傑』にも強く影響していると思われる。『東欧女豪傑』も五回だけの未完の小説である。華明卿は第二回にちょっと顔を出して、三回以後は現れない。以上のことから考えて王端雲のモデルは華明卿ではないと思われる。

また、『東欧女豪傑』の作者が梁啓超ではない。それ故に、二小説の時間、内容、作者から考えると、華明卿が王端雲のモデルと解釈することは、難しい。要するに、王端雲は『平等閣筆記』における謎の女性であり、幽蘭、紅蓮、何蕙珍の姿も映し出す女丈夫式の佳人であると考えられる。

5 . おわりに

梁啓超による『新小説』創刊号の発刊辞としての『小説と群治の関係を論ず』の中には、「中国群治腐敗の総根源」が小説であり、中国人の「才子佳人の思想」も小説から出てきたと指摘されている。「青年子弟が十五歳から三十歳まで、ただ多情、多感、多愁、多病であることを一大事業と考え、綿々とした愛情に溺れて男子の気迫に欠け、風俗をも墮落させる行為をして、社会に毒をまき散らす」小説は、もちろん「才子佳人の思想」の悪影響である。その主な原因は政治思想を有していないからとされるのであろう。『新中国未来記』の序言とも言われる『小説と群治の関係を論ず』から見れば、『新中国未来記』における志士、佳人像は古代小説の才子佳人像を打ち破って、日本政治小説における志士佳人の形式を採用したと思われる。『経国美談』、『佳人之奇遇』のように志士佳人の間に、恋愛が芽生えるが、しかしそれは精神的な恋愛にすぎず、「志士の政治的熱情とそれに共感する佳人の恋愛との間には矛盾はない」³⁶からである。

前述したように、政治小説における「美人芳草に、別に意図がある」「佳人」像、「熱血舌戦、幾多闘将」の「志士」像が「読む度に心を打たれ、移情させられる。千金国門に、誰もが同好を持つ」役割を有する。これは梁に

大きな影響を与えた。いわば、誉めそやされた日本の政治小説の手本において、志士佳人は政治宣伝に差し支えなかったばかりではなく、「国民の脳に滲み込む」³⁷ 効力もあった。

そこで、志士佳人は「盗を誨え、淫を誨える」³⁸ 才子佳人式の伝統的小説とは同じではなく、「小説報の読者に愛想が尽きて眠たくさせ、巻を終えることができなくさせる」³⁹ ことを避けるための役割、政治宣伝の役割を支えるものである。それ故に、日本の藍本から見るにせよ、政治的宣伝から見るにせよ、『新中国未来記』は日本の政治小説における志士佳人の形式を受容したものである、と言えよう。

注

- 1 主なものを掲げておく。中村忠行が『佳人之奇遇』『経国美談』からの影響を論じている（『『新中国未来記』攷説——中国文芸に及ぼせる日本文芸の影響の一例』、『天理大学学報』1巻1号1949.5）、陳平原が『雪中梅』の「まくら」の影響を論じている（『中国小説叙事模式的転変』、上海人民出版社、1988.3 p42～43）、夏曉虹が末広鉄腸とその作品『雪中梅』の構成や内容からの影響を論じている（『覚世与伝世——梁啓超の文学道路』、上海人民出版社、1991.8 p223～234）、山田敬三が『雪中梅』、『花間鶯』からの影響を論じている（『『新中国未来記』をめぐって——梁啓超における革命と変革の理論』、『共同研究 梁啓超：西洋近代思想受容と明治日本』みすず書房、1999.11）。
- 2 中村忠行、同1注；夏曉虹、同1注；山田敬三、同1注。
- 3 「飲冰室自由書」、『清議報』第26冊、1899.9。「本館第一百冊祝辞並論報館之責任及本館之経歴」、『清議報』第100冊、1901.12。
- 4 「中国唯一之文学報<新小説>」、『新民叢報』第14号、1902.8。
- 5 柳田泉『政治小説研究』上、春秋社 1935.5、p240。
- 6 矢野龍溪『経国美談』「現代日本文学大系序巻」所収、河出書房版、1952.3。
- 7 平岡敏夫『日本近代文学の出発』塙書房、1992.9、p79。
- 8 同6注、後篇第3回。
- 9 同7注、p85。
- 10 東海散士「佳人之奇遇」、『日本現代文学全集3・政治小説集』所収、講談社版1965.12、原文は元々漢文である。
- 11 同上注。

- 12 梁啓超「本館第一百冊祝辞並論報館之責任及本館之経歴」『清議報』第100冊、1901.12。
- 13 千葉ニンニンと佐々木久春氏は、「日本の政治小説の構造や風趣に強く影響された梁啓超が自作の『新中国未来記』（1902）では、日本の政治小説によくある才子佳人のパターンを完全に排除した」と指摘している。「日本の〈政治小説〉と清末の〈小説界革命〉」『秋田大学教育文化学部紀要』54、1999.3。
- 14 楊義主筆、中井政喜、張中良合著『中国新文学図志』人民文学出版社1996.8、p16。
- 15 梁啓超が「初帰国演説辞」（『飲氷室文集』二十九）において、その寓意を説明している。実は、黄克強が黄興（1874～1916、辛亥革命の指導者、1902年日本に留学）の字と偶然に一致するのではない。というのは、黄興の字は最初が軫で、1904年に克強と名乗った。当時の留学生は梁啓超の作品を愛読したので、黄興は『新小説』に連載された「新中国未来記」を読んだのであろう。そこで小説における黄克強のような、民族を救い出す者になろうとしたと思われる。
- 16 同6注、後篇第9回、尾評は漢文である。
- 17 同6注、前篇第15回。
- 18 「新中国未来記」『新小説』第2号、1902.12。
- 19 中村忠行、同2注。
- 20 柳田泉、同5注、前掲p497参照。
- 21 中村光夫『日本の近代小説』岩波書店1954.9、p30。
- 22 梁啓超「紀事二十四首」『清議報』第64冊、1900.11。
- 23 中村忠行、同2注。
- 24 この恋慕の情は「ハワイの恋」と言っても過言ではなからう。
- 25 丁文江、趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社1983.8、p249。
- 26 同上注、p251。
- 27 同上注、p251。
- 28 同上注、p254。
- 29 同上注、p250。
- 30 「紀事二十四首」同22注。
- 31 王曉平氏は次のように指摘する。梁啓超は「<今より柴東海を羨まず、枉げて多情によりて薄情を惹く>から見れば、『佳人之奇遇』における日本志士と西洋佳人の恋愛に対して否定的な見方を取っている。そのため自ら創作した『新中

『国未来記』は志士佳人の形式をとっていない。」と指摘している（『近代中日文学交流史稿』香港中華書局、湖南文藝出版社 1987. 12。 p 223）。

32 中村忠行、同 2 注。

33 山田敬三、同 2 注。

34 同 20 注。

35 夏曉虹「誰是『新中国未来記』第五回的作者」『中華讀書報』2003. 5。

36 橋川文三、鹿野政直、平岡敏夫編『近代日本思想史の基礎知識：維新前夜から敗戦まで』有斐閣 1971. 7、p 103。

37 「飲冰室自由書」同 3 注。

38 梁啓超「訳印政治小説序」『清議報』第 1 号、1898. 11。

39 梁啓超「新中国未来記」第 2 回『新小説』第 1 号、1902. 11。